

研究主題「自他ともに大切にし、心豊かな生徒の育成」

～「考え、議論する道徳科」の実践を通して～

越谷市立中央中学校

1 研究主題の設定理由

本校では「自他ともに大切にする生徒」を学校教育目標に掲げ、日々教育活動に取り組んでいる。また、今年度からは「自立・貢献」を合言葉とし、自ら考え、行動できる生徒の自主性、他者と心豊かに関わりながら協働していく姿勢をより一層重視して、全職員で日々の教育活動にあたっている。自他共に大切にする生徒を育成していく上で、全教育活動を通じて行われる道徳教育は重要な役割の一つであると考えている。

道徳教育の中で要となるのが、道徳科の授業である。「特別の教科 道徳」として平成31年4月から全面実施となり、本校でも道徳の授業の充実を図ってきた。全教職員で共通理解を図りながら進めることはもちろん、校内研修での教材分析会、それをもとにした全校道徳授業公開は本校の特色の一つである。また、越谷市の小中一貫教育のキーワードである「わくわく感のある授業づくり」を、道徳科の授業にも取り入れてきた。しかし、道徳科の授業においては、限られた時間の中で担任のみで教材分析を行うことも多く、多様な指導方法が実践できていない現状もある。生徒一人一人が自己の生き方を見つめ、多様な価値観や考えを認め合い、よりよい生き方についての考えを深め、教師と生徒が共に考え、議論する道徳科の授業を目指していきたい。そのために、教師が多様な指導方法を身につけ、主体的、対話的で深い学びのある道徳科の授業の実践を積み重ねていくことは、本校の教育活動において大きな役割を果たすと考える。

以上のことから、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

本研究仮説を、「多様な指導方法を効果的に取り入れ、これまで以上に自己を見つめ、多様な価値観や考えが存在することを互いに認め合う『考え、議論する』道徳科の授業の充実を図れば、自他共に大切にする生徒の育成につながるだろう」とし、授業実践を通して検証する。

3 研究の経過

時 期	内 容
4 月	・校内研修（道徳科の共通理解、講師の方による講義）
8 月	・校内研修（教材分析会）、公開授業
9 月	・全校道徳公開授業（土曜日の学校公開日に実施）
1 月	・埼玉県道徳教育研究推進モデル校に係る学校訪問（授業公開及び指導助言）
通年	・評価の共通理解、課題の検討 ・掲示物作成、教材分析、相互授業参観 ・毎月の道徳通信の発行

4 研究の内容

(1) 『考え、議論する』道徳科の授業実践にむけて

①生徒同士の対話、議論の深まりをつくる学習展開の工夫

『議論する』部分である話合いの工夫を行っている。自分の考えを声に出して表現することが苦手な生徒、書くことが苦手な生徒にとっては、多様な表現方法が必要となる。言葉による表現以外に、役割演技やICTの活用等、なるべく様々な方法を1時間の授業の中に取り入れられるようにしている。また、話合いをする時には、テーマを決めるようにし、プリントに書いたことを発表し合うだけにならないようにしている。



②話合いの内容に合わせた座席の工夫（コの字、T4等による話合いの活性化）



③ICTの効果的な活用（多様な思考ツールの活用、アンケートの実施、言語活動の充実）

事前アンケートの集計結果をモニターに映したり、タブレット端末を活用して生徒の考えや意見を表示したりして、クラスで共有できるようにしている。また、道徳科の授業に関する意識調査は、生徒一人一人の端末を活用して実施した。



④中心発問の改善（道徳的価値に迫る発問の工夫）

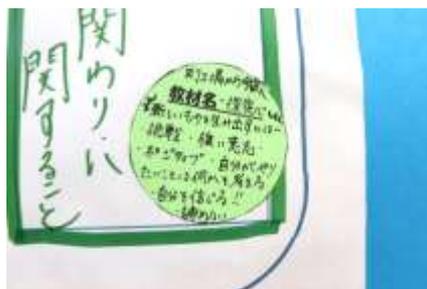
教師による『意図をもった』発問をしている。

- ・ 内容項目にせまる<揺さぶる>発問
- ・ 教科書に書いていない<心情>や<行動>を考える

【発問例】 ～はどんな気持ちか ～なのはどうしてだろう（どうなるだろう）
～自分だったらどうだろう ～本当にそうしてよいのだろうか

⑤全学年統一の道徳コーナーを設置（道徳的価値の見える化を図る掲示物）

『心の充電機』という掲示物を全クラスに配布・掲示している。A～Dの内容項目や話し合ったことなどをカードに記入し、貼付している。



埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(2) 全職員の道徳教育の充実

①道徳資料室の充実（全教員で活用できる資料の作成、教材・場面絵の共有）

各教師が工夫した短冊や場面絵、指導案等を共有して使えるようにしている。設置してから3年目であるが、改良を重ねながら活用している。



②道徳教育に関する校内研修の実施（講話、教材分析、公開授業、相互授業参観）

4月に幸手市教育委員会 教育長 山西 実先生をお招きし、『道徳授業づくりの課題とポイント12』と題してご指導をいただいた。また、8月には埼玉県道徳教育研究会顧問の藤澤由紀夫先生をお招きし、教材分析のご指導や、公開授業に向けた指導案検討を行った。毎年9月の学校公開日には、全クラスで道徳科の公開授業を行っている。



幸手市教育長 山西 実 先生



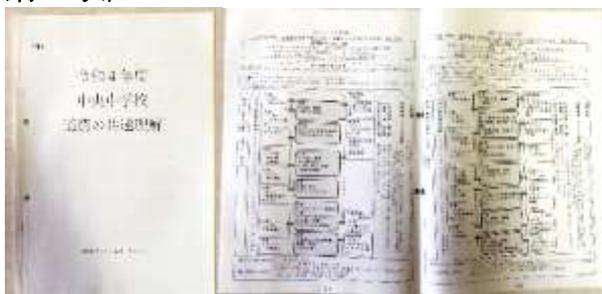
埼玉県道徳教育研究会顧問
藤澤 由紀夫 先生



全クラスでの道徳科の公開授業

③別業を意識した全教育活動での道徳教育の取組

本校で行う道徳教育について、全教員で4月当初に共通理解を図っている。全体計画や年間指導計画だけでなく、他の教育活動との関連や授業のポイント、別業など、授業を行う上での実践的な内容になっている。また、道徳教育推進教師による道徳通信を毎月発行し、教材分析や授業のポイントなどを分かりやすく情報提供し、どの教師も授業を実践しやすくしている。



④各教科等の特質に応じた道徳教育

各教科等の特質に応じて、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関連して美術科では地域の伝統工芸品を扱った作品制作を行ったり、「友情、信頼」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関連して保健体育科では集団競技を行ったりしている。

他にも理科では「生命の尊さ」に関連して生命の領域の学習を行うなど、特別活動も含めて実践している。

(例) ○美術：地域の伝統工芸品を扱った作品制作

内容項目「郷土愛」

○保健体育：集団競技

内容項目「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」



⑤『私たちの道徳』『彩の国の道徳』『越谷市道徳教育郷土教材集』の活用

文科省『私たちの道徳』をはじめ、埼玉県や越谷市にゆかりのある教材を使用することで、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に限らず、身近な地域での出来事を扱った教材を活用して、より自分事として考えられるようにしている。

なお、下の中央写真は、9月の全校道徳公開授業で実施した「きらめけ ぼくだけの音色—ピアニスト、辻井伸行—」（彩の国の道徳）の板書である。



5 研究の成果と課題

(1)成果

- ・意見交換の場が多くなるように授業を組み立てることで、自分の意見を多く言えるようになった。(会話だけでなくICTを活用しての情報発信も含む)
- ・道徳科の授業は自分の生き方に役立つと感じる生徒が増えてきている。
- ・教師の話の他に、仲間の意見や考えを聴いて学びとっている場面が出てきている。
- ・副担任も道徳科の授業に参加するようにしたことで、担任以外の授業によって刺激を受けながら学習を進められている。

内容	項目	中1	中2	中3
①はじめのある生活ができる。	1 時刻を守る ② 授業開始時刻	97.2%	99.6%	97.9%
②礼儀正しく人と接することができる。	3 進んで挨拶や返事をする ⑥ 返事	93.1%	93.2%	89.8%
③約束やきまりを守ることができる。	5 学習のきまりを守る ⑩ 集団の場での態度	91.1%	94.9%	93.2%

・「規律ある態度」達成目標の調査では、多くの項目で県平均を上回っている。また、12月に実施したアンケート調査の「規範づくりや学校の決まり」の項目では、肯定的な意見が97%に達した。「約束やきまりを守ること」に関して、生徒の心の成長が大きく表れている。

(2)課題

- ・正解がないため、どのように答えてよいか分からない生徒もまだみられる。
- ・言葉や文章にすることが苦手な生徒や、自分事として捉えられていない生徒もいる。
- ・ワークシートを書くだけの授業にならないように工夫が必要である。
- ・話し合いの際に『自分の考えを伝えるだけ』になることも多く、『議論』することの難しさを感じる。(生徒同士の活発な意見交換や時間の確保等)
- ・現在の道徳ファイルは1年単位となっているため、過去の同じ内容項目を自分がどのように考えたのかが分かるように、3年間を積み上げられるものにしていく。